

クラウドで契約をかんたんに



クラウドサイン受信者用

ご利用ガイド

面倒な手続きなく簡単に使える クラウド型の電子契約サービス

メールで届いた書類のリンクをクリックし、
オンラインで書類の内容を確認して、合意締結することができます。
なお、受信者側はクラウドサインに登録をする必要がありません。

弁護士ドットコムが、合意締結された書類のファイルに
改ざんが不可能な電子署名を施します。



クラウドサインでは、本人の同一性の確認・書類に改ざんがないことを証明することができ、合意締結された書類は十分な証拠力を有します。

受信者の特定・認証

クラウドサインでは、送信者が書類を送ると、受信者のメールアドレス宛に、書類を閲覧・確認するためのユニークURLを都度発行いたします。このURLに悪意を持った第三者が不正にアクセスするためには、1秒間に1億回ランダムなURLを作成してアクセスを試みても、宇宙の寿命より長い期間が必要です。従って、このURLをクリックできるのはメールアドレスの保持者のみであり、これにより本人を特定しています。

また、万が一クラウドサインからのメールそのものが流出してしまった場合でも、送信者は、受信者が書類を開くためのアクセスコード（パスワード）を予め設定することができ、それを別途受信者に連絡しておくことで、当事者外による書類の閲覧を防ぐことができます。

双方の合意の意思表示の証明

クラウドサインでは、送信者が送ったPDFファイルに対して受信者が確認・同意することにより、合意締結が成立します。（確認完了済みのPDFファイルに、弁護士ドットコム株式会社が相互同意を示す改ざん不可能な電子署名を付与いたします）。

書類に対する改竄防止

クラウドサインで合意締結されたすべての書類には、クラウドサインのみが発行可能な電子署名が付与されますので、それにより真正な書類を判別することができます。電子署名の仕組みには、強固な暗号化方式によって守られている公開鍵暗号方式に基づくデジタル署名を採用しています。

クラウドサインは、お客さまの重要な書類をお預かりするサービスであるため、セキュリティには万全を期しております。

暗号化通信・ファイアウォール

通信における情報漏洩、改ざんや成りすましを防ぐために、お客さまとのやり取りは常に最大暗号強度が256bit、鍵長2048bitの公開鍵暗号という金融機関レベルの強固なSSLで暗号化しております。

また、外部のネットワークからの攻撃や不正なアクセスからデータの機密を保護するために、ファイアウォールにより機密情報をインターネットから隔離して保管しています。

書類のバックアップ

書類のデータは常にバックアップしています。複数の施設にまたがる複数のデバイスにて多重にバックアップしているため、災害時等でも紛失の心配がありません。

機密保持ポリシー

お客さまの同意を得たとき、または法令により要求される場合など、特定のごく限られた状況を除いて当社スタッフがお客さまの書類の内容やタイトル、取引先情報を閲覧することはございません。

なお、本サービスを運営する弁護士ドットコム株式会社は、情報セキュリティマネジメントについての国際標準規格「ISO 27001(ISMS)」を取得し、情報の機密性・完全性・可用性の維持、改善に取り組んでいます。(2016年10月取得済)

書類への合意締結そのものは、クラウドサインへのアカウント登録を行わなくともできますが、アカウント登録をすることによって、書類が自動的に保存され、書類名で書類を検索、閲覧することができます。新しく書類を送信したり、より便利な管理機能を利用したい場合には、クラウドサインのアカウント登録をおすすめいたします。

アカウント登録をすると利用できる機能



契約締結

たったの数分で契約を締結することができます。契約締結までのステータス確認・送信先へのリマインドも可能です。



書類保管

セキュアな保管機能です。スキャンした紙の書類の取り込み機能も追加予定です。



書類検索

書類名で書類を検索することができます。後に契約期間や本文の検索機能も追加予定です。



本人確認

基本のメール認証に加えて、アクセスコード認証をご利用いただけます。

クラウドサインへのアカウント登録方法

クラウドサイン (URL : <https://www.cloudsign.jp/>) にアクセスし、オンラインで簡単に登録することができます。

新規の書類送信件数が 月 10 件、ユーザー数 1 名までであれば、ご利用料金は無料です。

書面ではなく、ウェブで契約をむすぶことは法的に有効なのでしょうか。

日本の法律では基本的に契約方式は自由ですので、ウェブで契約を結んでも問題ありません。ただし、ごく一部、例外的に書面を交付することが要求される契約もありますので、ご心配な場合は、最寄りの弁護士に相談してください。

電子データは捏造、改竄が容易ですが、どうやって対策しますか。

クラウドサインで締結されたすべての書類には、クラウドサインのみが発行可能な電子署名が付与されますので、それにより真正な書類を判別することが出来ます。

本人性をどのように確認するのでしょうか。

クラウドサインは契約相手の本人性の証明を容易にするために、メールアドレス認証（※1）を基本としております。これに加えてパスワード認証（※2）もご利用いただけます。

なぜクラウドサインでは、印紙税が不要なのでしょうか。

印紙税法で印紙税の対象は課税文書とされていますが、現時点では電子データは課税文書にあたらないとされています。

※1 メール到着確認による本人認証方法

※2 書類の送信者が任意のパスワードを設定し、受信者が契約内容を確認する前にパスワードの入力を求める本人認証方法

お問い合わせ先

弁護士ドットコム株式会社 クラウドサイン運営事務局
Email : contact@bengo4.com